

厚生文教委員会 視察報告書

1 視察日程

令和元年8月7日（水） 午後1時30分～

2 視察先及び目的

視察先：特定非営利活動法人 ひだまりの家かほく
（河北すこやかふれあい交流センター）

目的：移転後のひだまりの家かほくの運営状況と
施設の管理業務委託の状況について

3 視察者

委員長 丹野 貞子

副委員長 細矢 誓子

委員 佐藤 修二、齋藤 隆、岡田 桂司、松田 収作、東海林 信弘

健康福祉課 堀米 課長

高橋 課長補佐兼社会福祉係長

議会事務局 中野 局長補佐兼議事係長

4 視察内容

<運営状況>

○ひだまりの家かほくは、平成16年に障がいを持つ子どもたちの親が集まり（手をつなぐ親の会）が小規模作業所として設立。

その後平成20年に特定非営利活動法人となり現在に至っている。以前は、町内南部地区にあるメリヤス工場跡を借用して活動していたが、平成29年度から、河北ふれあい交流センターに移り活動している。

○スタッフは、正規職員3名、パート職員2名、相談員1名。

○町から、平成29年4月から河北ふれあい交流センターの施設管理を業務委託されている。

○通所されている人は、現在18名で、内訳は、町内から13名、寒河江市から4名、東根市からは1名で、19歳～70歳代の方々となっている。

○今は、施設内の仕事が多いが、農作業などの仕事で外に出る仕事を多くしたいとのことだった。





お仕事、お任せください！

- 通所される人たちは、原則は、自力での通勤だが、ほとんどの方が送迎車を利用している。
- 相談支援の中で、虐待相談は2件ぐらいあったが、児童相談所と連携して進めている。
- 施設周辺の草刈りは、町の方で年3回実施している。年1回は保護者会の方々がボランティアで実施している。
- 河北ふれあい交流センターは、地域の人たちと融合できる施設になっている。

<取組み状況>

○就労支援

委託作業：プラスチック製品の袋詰め、端子のはめ込み、社会福祉協議会清掃業務など。
短期季節作業：さくらんぼのパック詰め、枝豆選別袋詰め、広告チラシ袋詰め、紅花種計量袋詰めなど。

手工芸品：祭り軒花製造、雑巾縫いなど。

○日中活動支援

季節の行事：季節に合った花見などのほか、8月の24時間テレビ募金活動の協力や2月のゲームセンターへ研修など。

○健康の維持・増進を図る支援

通所者の体重の管理や指導などを行っている。また、家族の方々へ健康管理についての講習なども実施している。

○相談支援

相談支援専門員を配置して、障がい者及び家族からの相談に応じ、より良い生活が送れるように支援している。



子どもたちも元気に遊び、活用していました

5 所感

- 当センターでは、地域の人（子どもや高齢者）たちが多く利用している点がとても良いと思う。
- 施設管理がうまく進められていると感じる。
- 農福連携事業については、町の対応が遅れている感がある。

6 まとめ

- 施設の管理委託業務などは、不都合なく行われている。
- 地域の人たちの協力体制がとても良い。北谷地地区の施設の参考にしたい。

- 農福商工連携を強化して、仕事を確保して行ってはどうか。
- 賃金アップの努力を町や商工会、企業などが協力していく体制づくりが大切だ。



ひだまりの家の皆さん、お忙しいところありがとうございました